

# 令和元年度

平成31年4月1日 ～ 令和元年3月31日

## 事業報告書

学校法人 野上学園

## 1. 法人の概要

### (1)建学の精神

本学園の建学の精神は「如何なる時も凡事徹底」です。この精神は学園が設置する全ての教育機関に受け継がれ、学生教育の柱となっています。

また本学は「動物」を学ぶことを目的とした教育機関を設置していることもあり、「動物から生きる知恵を学ぶ」ことを使命とし、「喜びを与える人であれ」を教育理念として、ヒトと動物が共に暮らせる社会を目指した人材育成を行なっています。

### (2)沿革

法人設立年月日

平成 19 年 9 月 25 日

学校設置年月日

ブレーメン愛犬クリエイティブ専門学校設置 平成 20 年 4 月 1 日

神戸ブレーメン動物専門学校設置 平成 24 年 4 月 1 日

東京ブレーメン動物専門学校設置 平成 29 年 4 月 1 日

ブレーメン愛犬クリエイティブ専門学校 学校名変更

ブレーメン動物専門学校 平成 31 年 4 月 1 日

### (3)設置学校

- ・ブレーメン動物専門学校 ペットビジネス学科／ペットマイスター学科

所在地：徳島県徳島市

- ・神戸ブレーメン動物専門学校 ペットビジネス学科

所在地：兵庫県神戸市

- ・東京ブレーメン動物専門学校 ペットビジネス学科

所在地：東京都北区

## (4)学生数

令和2年5月1日現在

## ブレイメン動物専門学校

学 科	入学 定員	収容 定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
ペットビジネス学科	35	70	38	42			80
ペットマイスター学科	5	20	1		6	1	8

## 神戸ブレイメン動物専門学校

学 科	入学定員	収容定員	1年次	2年次	合計
ペットビジネス学科	40	80	57	51	108

## 東京ブレイメン動物専門学校

学 科	入学定員	収容定員	1年次	2年次	合計
ペットビジネス学科	40	80	35	23	58

## (5)教職員数

令和2年5月1日現在

## ブレイメン動物専門学校

教員数（本務）	教員数（兼務）	教員合計	職員数（本務）	職員合計
6	3	9	1	1

## 神戸ブレイメン動物専門学校

教員数（本務）	教員数（兼務）	教員合計	職員数（本務）	職員合計
6	11	17	2	2

## 東京ブレイメン動物専門学校

教員数（本務）	教員数（兼務）	教員合計	職員数（本務）	職員合計
5	5	10	1	1

## (6)役員・評議員概要

令和2年5月1日現在

[定数] 理事5 監事2 評議員11

職名	氏名	任期	備考
理事長	野上 耕一	令和元年9月～令和3年9月	
理事	野上 和子	令和元年9月～令和3年9月	
理事	和田 信彦	令和元年9月～令和3年9月	外部理事
理事	内藤 榮	令和元年9月～令和3年9月	外部理事
理事	豊實 祐之	令和元年9月～令和3年9月	
監事	高橋 諭	令和元年9月～令和3年9月	
監事	園田 貴彦	令和元年9月～令和3年9月	

職名	氏名	任期
評議員	野上 耕一	令和元年10月～令和3年10月
評議員	野上 和子	令和元年10月～令和3年10月
評議員	和田 信彦	令和元年10月～令和3年10月
評議員	内藤 榮	令和元年10月～令和3年10月
評議員	豊實 祐之	令和元年10月～令和3年10月
評議員	鈴木 泰宣	令和元年10月～令和3年10月
評議員	矢野 章太	令和元年10月～令和3年10月
評議員	松村 直子	令和元年10月～令和3年10月
評議員	呉 靖子	令和元年10月～令和3年10月
評議員	小松 敏之	令和元年10月～令和3年10月
評議員	平木 彰子	令和元年10月～令和3年10月

## 2. 事業の概要

### ①事業概要

学校法人野上学園は専修学校（専門課程）3校を有する。東京ブレイメン動物専門学校が開校3年目となり、教育内容・設備の充実、学生募集の改善をはかり、グループ校全体での連携を向上させ、学生教育活動をより充実させることを目的とする。

#### (1)学生募集活動

今年度の学生募集は、法人全体として前年比111%を達成した。要因としてブレイメン動物専門学校、神戸ブレイメン動物専門学校の募集状況が安定していることに加え、東京ブレイメン動物専門学校が開校3年目となり、認知度の向上により募集数の伸びが顕著であったことがあげられる。今後も連携授業や地域活動を組み入れるなどの様々な取り組みを行い、地域の業界との連携を密に図り、幅広いターゲットを明確にした対応を短期・中期・長期的な視野から広報サイクルの展開を図っていくことが重要となる。

#### (2)教育活動

教育理念である喜びを与える人であれを実践し、学生一人一人を大切にすることで、学びである動物と人間のよりよい共生社会を目指すことを継続する。

学生が就職後、即戦力となることを主旨とし、動物が本来もっている性質や機能を深く理解することで、日々変化し続ける社会に対して柔軟な対応ができる人材を育成する。

動物を観察し、観察力をつけることで人間社会に必要な「コミュニケーション能力」の向上を図り、マナーや道徳心をもった社会人として貢献できる人材を育成することを目指す。

また学生に対して、各種スキル・知識の取得対策を充実させるとともに、心身のケア支援、生活習慣に関する指導を改善し、学生生活全体の支援体制を整える取り組みを行う

#### i 授業計画書作成方針

カリキュラムの基本編成を基に各教科担当教員が年間の授業予定を定め、各科目の記載項目についての詳細な編成を進める。

授業の目的、到達目標、授業内容・方法、年間スケジュール、成績評価方法・基準等を設定し、学生が各授業科目の学習準備を進めるための基本となるものとする。また、選択科目においては、授業選択の参考となる資料になるものとし、自己評価や学生による授業評価等にも利用できるものとする。

年度毎に内容の見直しは行われ、新たな学術研究の結果を取り入れ、学習内容の質向上を図る。

#### ii 成績評価の方針

授業科目の成績評価は、上位より優（100～90点）、良（89～80点）、可（79点～60点）、不可（59点以下）の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。

前項の規定にかかわらず、授業科目によっては、教育的効果等を考慮し、成績評価をP（Pass、合格）、N（Non-pass、不合格）で表示することが出来るものとする。

成績評価による学業結果のうち、評定平均値を用いて学業成績を総合的に判断する指標とする。

#### iii 卒業認定の方針

本学の理念である「喜びを与える人であれ」の精神を理解し、「如何なる時も凡事徹底」が、生涯にわたる基盤となるよう身に付いている。

主体的、自主的、能動的な姿勢が身に付き一定の思考力、判断力、表現力を獲得している。

動物分野の基礎学問を身につけ、動物から生きる知恵を学ぶことが出来る。

卒業要件として、決められた授業時間単位以上を受講し、授業科目の成績評価に

基づき、学校長が課程修了の認定を行う。

#### (4)組織体制

今後の私学経営を取り巻く厳しい環境に対応していくため、次世代の管理者を育成し教育と経営の両面でバランスの取れた人材を適材適所に配置していくことが急務であり、教職員研修や指導体制を整えて組織力を強化していく。

### ②事業計画及び進捗状況

#### (1)教育研究の取り組み

実践型教育をこれまで以上に充実させるために、企業との連携をより推進している。動物産業だけでなく、他分野の産業界との連携を活発に行い、特定の業種のみの特化した教育だけではなく、時代に対応できる社会人を育成することを重視する。

昨年度の東京ブレイメン動物専門学校の開校により、学園全体としてより幅広い地域での教育活動が行える地盤が出来つつあり、様々な地域企業との連携が可能となった。

また、国内だけでなく、海外の教育施設、企業との交流を進めてきたが、これまでのアジア圏だけでなく、提携しているアメリカ・カリフォルニア州のモアパークカレッジとの定期交流を通じて、より国際的な観点での教育活動が増加している。

令和元年度はアメリカ・カリフォルニア州での学生研修を実施し、成果を出している。

#### (2)教職員の質向上

教職員は近年の多様化した社会、動物産業の多彩なペットビジネスサービスのニーズに対応する為に必要な知識・技術を習得することが必要となる。国内外を問わず、連携企業・学校への研修・セミナーを定期的に行い、教職員の資質・能力の向上と意識改革を進める。

専門分野における実務に関する研修実績として、海外提携大学モアパークカレッジでの飼育学研修、動物愛護及び管理に関する法律に関連した研修会への参加、日本臨

床獣医師会フォーラムでの動物看護等研修プログラムの受講を実施。

指導力向上の為の研修として、フリーアナウンサーを講師に招き、定期的な話し方のセミナーを開催、専修学校各種学校連合会主催の教職員セミナーへの参加実績がある。

### (3)新規校認可申請

4校目のグループ校となる。大阪ブレーメン動物専門学校（大阪市福島区）の設置認可申請を大阪府へ提出。

令和2年3月の大阪府私立学校審議会にて設置計画が適当であるとの答申を受け、令和3年4月の開校に向けて準備を進めている。

### (4)施設関係

大阪ブレーメン動物専門学校（大阪府認可申請中：令和3年4月開校予定）の校舎建築を開始、令和2年2月に竣工。

## ③施設等の状況

設置学校の校舎所在地

- ・ブレーメン愛犬クリエイティブ専門学校

1号館 徳島県徳島市佐古一番町5番4号

2号館 徳島県徳島市佐古一番町19番1号

- ・神戸ブレーメン動物専門学校

兵庫県神戸市中央区布引町2丁目1番17号

- ・東京ブレーメン動物専門学校

東京都北区滝野川7丁目39番14号



### 3. 財務の概要

#### (1) 2019年度決算概要

##### ①貸借対照表の状況

2019年度決算においては、総資産額は前年度より119百万円増加、総負債額は5百万円増加した。負債が増加しているのは、入学者増に際して前受金関係が増加したものに寄与する。

##### ②収支計算書の状況

2019年度決算においては、経常収支差額が約40百万円増加した。東京ブレイメン動物専門学校が開校3年目を迎えて学生数が増加し、学生生徒納付金収入が伸びたことや、同時にグループ校全体として補助活動収入も大幅に伸びたことが要因となる。

#### (2)経年比較

##### ①貸借対照表

(単位：千円)

科目	29年度	30年度	2019年度
固定資産	496,522	591,870	821,496
流動資産	248,747	259,854	149,213
資産の部合計	745,270	851,724	851,724
固定負債	118,924	114,845	106,547
流動負債	142,977	175,615	188,703
負債の部合計	261,801	290,460	295,249
基本金	406,345	516,327	767,072
繰越収支差額	77,123	44,936	91,614

純資産の部合計	483,468	561,264	675,459
負債及び純資産の部合計	745,270	851,724	970,709

②収支計算書

i 資金収支計算書（単位：千円）

科 目	29 年度	30 年度	2019 年度
学生生徒納付金収入	135,460	158,635	194,315
手数料収入	195	262	356
寄付金収入	0	4,000	0
補助金収入	2,226	2,243	2,262
資産売却収入	0	0	0
付帯事業・収益事業収入	44,721	61,211	78,824
受取利息・配当金収入	4	5	5
雑収入	1,426	487	682
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	133,021	164,875	178,242
その他の収入	15,253	17,459	19,502
資金収入調整勘定	△110,599	△133,922	△167,030
前年度繰越支払資金	179,877	248,747	258,953
収入の部合計	401,587	524,004	566,112

科 目	29 年度	30 年度	2019 年度
人件費支出	87,017	91,387	103,912

教育研究経費支出	15,517	11,934	14,569
管理経費支出	21,757	33,555	31,120
借入金等利息支出	602	563	491
借入金等返済支出	7,293	7,956	8,619
施設関係支出	0	97,382	239,752
設備関係支出	5,724	9,553	2,032
資産運用支出	10	0	0
その他の支出	15,537	18,302	19,330
資金支出調整勘定	△618	5,576	773
翌年度繰越支払資金	248,747	258,952	147,058
支出の部合計	401,587	524,004	566,112

ii 事業活動収支計算書 (単位：千円)

科 目	29 年度	30 年度	2019 年度
学生生徒等納付金	135,460	158,635	194,315
手数料	195	262	356
寄付金	0	0	0
経常費等補助金	2,226	2,243	2,243
付随事業収入	44,721	61,221	78,824
雑収入	1,146	487	682
教育活動収入計	184,028	222,839	276,440
人件費	87,017	91,378	103,912
教育研究経費	25,373	22,212	24,941
管理経費	21,757	34,894	32,906

徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	134,148	148,485	161,7605
教育活動収支差額	49,880	74,353	114,680
受取利息	4	5	5
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	4	5	5
借入金等利息	602	563	490
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	602	563	490
教育活動外収支差額	△597	△558	△486
経常収支差額	49,283	73,795	114,195
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	0	4,000	00
特別収入計	0	4,000	0
資産処分差額	0	0	0
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	0	0	0
特別収支差額	0	4,000	4,000
[予備費]	0	0	0
基本金組入前当年収支差額	49,283	77,795	114,195
基本金組入額合計	△13,017	△109,981	△250,744
当年度収支差額	36,265	△32,186	△136,550
前年度繰越収支差額	40,857	77,123	44,936
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	77,123	44,936	△91,614

